

フレアアウトを伴う重度慢性歯周炎患者に包括的診断を意図した1症例

医療法人平和会 添島歯科クリニック 添島 賢一

Key Word: 1. 診査・診断

2. 治療計画

3. 咬合再構成

重度歯周炎患者において、臼歯部の動揺や病的移動により咬合高径が低下し、上顎前歯のフレアアウトを伴った状態が見られる場合がある。このような症例では歯周治療、矯正治療、補綴治療などを含めた包括的な治療戦略が求められが、今回、重度の歯周炎に伴うフレアアウトを認めた症例について、歯周治療とともに咬合再構成を含めた包括的治療のための診査・診断・治療計画について私見を述べたいと思います。

患者は43歳の女性で、審美障害と咬合不安定を主訴に2014年6月28日に来院した。現病歴として、数年前より全顎的に歯肉腫脹、疼痛、歯牙動揺を自覚していたが放置していた。その後、21の自然脱落したのをきっかけに当院を受診することとなった。の全身既往歴および家族歴に特記事項はなかったが、スモーカーで喫煙歴が1日10本20年であった。

現在初期治療が終了し、今後矯正治療、補綴治療などを含めた包括的治療を計画しており、現段階での診査診断治療計画及び問題点についてSJCDフォーマットにのっとり発表したいと思います。諸先生方のご意見ご鞭撻等をいただければ幸いです。